

TAIKO AUDIO

Olympus Server & I/O Manual



はじめに

TAIKO Audio は革新的なオランダのハイエンドオーディオ研究所です。私たち TAIKO Audio の使命は、最高級のコンポーネントと独自の技術とノウハウを最大限に活用することによって、最高の品質で音楽をオーディオファイルにお届けすること、また、きめ細かいカスタマーサービス、サポートを提供することです。このマニュアルは、サーバーをできるだけ早くインストールし、使用するのに役立ちます。それでは、新しい Olympus サーバーおよび Olympus I/O と、それらがもたらす最高度の音質をお楽しみください！

Taiko Audio Team

目 次

はじめに.....	2
目 次.....	3
1 利用可能な文書.....	5
2 本製品について.....	5
2.1 使用目的	5
2.2 製品の説明	5
2.3 バッテリー電源 (BPS).....	6
2.4 バッテリー管理システム (BMS) アプリ	7
2.5 梱包内容	8
2.6 ギガビットネットワークのみ	9
2.7 安全上のご注意	9
2.8 重要なヒント	9
3 設置.....	10
3.1 設置場所	10
3.2 最高の音質を得るためのヒント	10
3.3 Olympus サーバーの接続.....	10
3.4 電源スイッチとスタンバイボタンの位置.....	11
3.5 Olympus サーバーのオンとオフの切り替え	14
3.6 Olympus I/O のオンとオフの切り替え.....	15
3.7 出荷モード (Shipping Mode)	15
3.8 Olympus サーバーと Olympus I/O の接続	16
4 Roon の設定	18
4.1 アプリとの接続	18
4.2 音楽ソースと出力の設定	21
4.3 サーバーのファイル構造にアクセスする	25
4.4 サーバーのデスクトップへのアクセス	26
4.5 Roon の詳細.....	27
4.6 ソフトウェアのアップデート	27
5 Technical Information	28
5.1 Specifications.....	28
5.2 寸法	32
5.3 背面パネル図 – Olympus サーバー.....	33

5.4	Olympus サーバー底面パネル図	34
5.5	Olympus サーバーXDMI カード図.....	35
5.6	Olympus I/O 底面パネル図	36
5.7	Olympus I/O XDMI カード図.....	37
5.8	ドーターボード付き XDMI カード	37
5.9	適合性について	37
6	安全について	38
6.1	サーバー上の安全シンボル	38
7	LED ステータス.....	39
8	問い合わせ先.....	40

1 利用可能な文書

クイックスタートガイド

Olympus サーバーには、クイックスタートガイドが付属しています。本書には、できるだけ早く使い始めるための最低限の情報が記載されています。

本マニュアル

お読みいただいている「マニュアル」は、操作面および技術面のあらゆる側面を網羅し、追加情報、ヒント、注意事項、法的情報も網羅しています。本マニュアルには、サーバーを適切かつ安全にインストール、試運転、運用、保守するために必要なすべての情報が含まれています。サーバーをご使用になる前に、このマニュアルをよくお読みになり、内容をご理解いただいた上でご使用ください。また、今後の参考のために大切に保管してください。

2 本製品について

2.1 使用目的

本製品はハイエンド・ミュージック・サーバーとして、室内での使用を目的としています。追加ソフトウェアのインストールは厳禁です。

2.2 製品の説明

Olympus は、ミュージック・サーバー単体、または Olympus サーバー + Olympus I/O の 2 シャーシ・システムとしてご注文いただけます。

Olympus サーバー

Olympus サーバーは、カスタム充電装置の付いたデュアルバッテリー電源と XDMI 出力を備えた音楽ストレージおよびストリーミングサーバーです。オリンパス・サーバーは、保存された音楽ファイルや、Qobuz や Tidal などのストリーミング・サービスから、最もリアルなサウンドを再生できるように設計されています。

XDMI

XDMI (エクストリーム・ダイレクト・ミュージック・インターフェイス) は、TAIKO 独自のインターコネクト・システムで、ハードウェアとソフトウェアの両方において、多くの中間処理ステップと変換を排除し、よりダイレクトで、より合理的で、より純粋な「音楽信号経路」です。XDMI には、アナログとデジタルの出力バリエーションを提供する専用の出力モジュールを選択することができます。いつでもどちらか 1 つのモジュールを取り付けることができます。XDMI 出力モジュールは、Olympus サーバー、または Olympus I/O のいずれかに取り付けます。両方の製品に同時に取り付けすることはできません。

現在利用可能な XDMI モジュールには、アナログ出力、DAC モジュール、AES/EBU + SPDIF デジタルモジュール、MSB または Lampizator DAC 用のカスタム実装があります。

XDMI に加えて、Olympus サーバーには固定 USB 出力もあります。最高の音質を得るには XDMI の使用をお勧めします。

Olympus サーバーでは、XDMI は 1 つのシャーシに統合されています。Olympus I/O を追加する場合、XDMI とネットワークカードはサーバーから、独自のデュアルバッテリー電源を備えた 2 つ目のシャーシに移動します。その後、2 つのシャーシに 400Gbps QSFP 相互接続システムを 2 つ取り付け、2 本の 800Gbps QSFP-DD Passive DAC (Direct Attach Copper) ケーブルを使用して相互接続します。

Olympus I/O

Olympus I/O は、専用のデュアルバッテリー電源と充電器を備えた外部インターフェースユニットです。I/O を使用する場合、ネットワークカードと XDMI 出力カードは、Olympus サーバーから専用の I/O シャーシに移設され、専用の内蔵バッテリー電源から電力供給されます。Olympus I/O は、Olympus サーバーと同時に注文することも、後から追加することもできます。

2.3 バッテリー電源 (BPS)

Olympus サーバーと I/O には、内部カスタム電源から給電される 2 つの独立したチタン酸リチウム バッテリー電源が搭載されています。このバッテリーは、最も厳しい安全レベルに準拠しており、メモリー効果に悩まされることなく、長く持続します。

Olympus サーバーと Olympus I/O は、常に AC 主電源に接続されるように設計されています。AC 主電源から Olympus サーバー、I/O を取り外すと、バッテリーは放電します。

システムおよび XDMI バッテリー電源は常に動作可能ですが、設定が異なります。

バッテリーの状態は BMS アプリで確認でき、特定の設定も可能です。詳細については、以下のバッテリー管理システム (BMS) アプリのセクションを参照してください。

2.3.1 Olympus サーバーBPS

サーバーには 2 つの独立した BPS セクションがあります。

最初のバッテリー・セクションは、コア・システムに電力を供給し、バッテリーが常時充電されるように構成されています。バッテリー電源の技術的利点と、より小型のセルサイズによる実用的利点が組み合わされています。

第 2 バッテリー・セクションは、XDMI 出力カードに電力を供給し、従来のバッテリーのようにサイクルで充電されるように構成されています。XDMI バッテリーは最大 36 時間の充電が可能で、長時間のリスニング・セッションにも十分なピュア・バッテリー・パワーを提供します。

バッテリーの充電を最適に保つには、主電源からサーバーを取り外す前に必ずスタンバイ状態に切り替え、サーバーを移動したらできるだけ早く主電源に再接続してください。

サーバーの電源コードを主電源から外し、完全に充電されたバッテリーでスタンバイ・モードの場合、システム・バッテリーは最大 6 時間ほど維持することができます。しかし、主電源から切り離された状態でサーバーの電源を入れ、音楽を再生している場合、フル充電されたシステム・バッテリーでも 30 分以上は電力を供給できません。サーバーを移設などのために主電源から切り離す前に、必ずスタンバイに切り替えてください。また、サーバーを移動した後は、必ず速やかに主電源に再接続してください。

2.3.2 Olympus I/O BPS

Olympus I/O を追加すると、サーバーの第 2 バッテリーセクションは、Olympus サーバーを I/O に接続する 2 枚の QSFP Interface カードに電力を供給するように再構成されます。

Olympus I/O には、2 つのバッテリー電源と、バッテリーセルを充電するためのカスタム電源が搭載されています。最初のバッテリーセクションはネットワークカードに電力を供給し、2 番目のセクションは XDML 出力に電力を供給します。バッテリーは、従来のバッテリーのように、サイクルで充電するように構成されています。最長 36 時間の充電が可能で、長時間のリスニングにも十分なピュア・バッテリー・パワーを提供します。

2.3.3 充電サイクル

理想的なバッテリー状況を維持するため、Olympus サーバーの第 2 バッテリーセクションと Olympus I/O の両セクションには、00:00~07:00 の充電サイクルがあらかじめプログラムされています。これらのバッテリーセクションについては、BMS（バッテリー マネージメント システム）アプリを使用して充電期間を自由に調整し、リスナーのスケジュールに正確に合わせることもできます。充電は、バッテリーの充電量が最小 SOC（充電率=State of Charge）設定で設定された値を下回った場合にのみ行われることに注意してください。

詳しくは「バッテリー管理システム（BMS）アプリマニュアル」をご参照ください。

2.4 バッテリー管理システム（BMS）アプリ

バッテリー管理システム（BMS）アプリは、iPhone 用の App Store および Android 用の Play Store で入手できます。このアプリを使用すると、Olympus サーバーと I/O 充電回路に簡単にアクセスできます。Bluetooth 接続は、サーバーのオペレーティングシステムが実行されていないとき、つまりサーバーがスタンバイに設定されているときでも、常に利用可能です。

このアプリは、バッテリーの状態などの重要なパラメータはディスプレイに表示され、一眼で状態を確認できます。さらに、このアプリでは、ユーザーが充電サイクルのカスタマイズなどの変更を行うことができます。

最初の Bluetooth 接続を確立するには、ペアリングコードとして PIN コード 000000（6x 0）を使用してください。

BMS アプリの詳細な使用方法については、別途「バッテリー管理システム（BMS）アプリマニュアル」をご参照ください。

2.4.1 バッテリー充電

TAIKO が使用しているチタン酸リチウム酸化物バッテリーは、最も厳しい安全レベルに準拠しており、メモリ効果がなく、数十年間持続します。とはいえ、サーバーを AC 電源から切り離すと、バッテリーは放電します。

AC 電源が接続されていないフル充電状態のスタンバイ・モードでは、バッテリーは最大 6 時間充電を維持することができます。しかし、サーバーの電源が入っていて音楽を再生している場合、フル充電されたバッテリーの充電時間は最大 30 分です。このため、サーバーを主電源から切り離す前に必ずスタンバイ・モードに切り替え、移設後はできるだけ早く主電源に再接続することをお勧めします。

電圧が以下の表示値以下の場合は、バッテリーを十分に充電してから本機を使用してください。

システムバッテリー

- 最低動作電圧は 13.6 V です
- 電圧がこれより低くなると、システムはシャットダウンします
- 電圧が高くても音質に影響はありません

XDMI バッテリー

- 最低動作電圧は 12 V です
- 電圧が低下するとカードは動作しなくなります
- 電圧が高くても音質に影響はありません

低電圧になるケースは、主電源を長時間切断した場合のみです。ユニットが主電源に接続されたままであれば、常に使用可能な状態になっているはずです。

外付け USB ドライブは、充電回路が供給できる以上の電流を消費する可能性があるため、バッテリーが十分に充電されていない場合は接続しないでください。

最良の音質を得るため、XDMI 出力を使用する際は、バッテリーが適切に充電されている場合でも、DAC や USB メモリー、USB ハードディスクなどの USB 機器を接続しないでください。

BMS アプリの詳細な使用方法については、別途「バッテリー管理システム (BMS) アプリマニュアル」をご参照ください。

2.5 梱包内容

梱包の中身は以下の機器、アクセサリです。すべて揃っていて、破損していないことを確認してください:

	Olympus サーバー
1x	Taiko Audio Olympus サーバー
1x	サーバーにプリインストールされた XDMI 出力カード
1x	RJ45 SFP アダプター
1x	XDMI 出力カード 1 枚以上 (オプション・ユーザーによりサーバーにインストール可能)

	Olympus I/O
1x	Taiko Audio Olympus I/O
1x	I/O にプリインストールされた XDMI 出力カード
2x	I/O にプリインストールされた XDMI QSFP インターフェースカード
2x	Extreme または Olympus Server サーバーに (ユーザーまたは販売店が) 取り付ける XDMI QSFP インターフェースカード
2x	QSFP-DD インターフェース相互接続ケーブル

部品が不足または破損している場合は、販売店へご連絡ください。

2.6 ギガビットネットワークのみ

Olympus サーバーは 1Gb（またはそれ以上）のイーサネット接続にのみ対応しています。サーバーの SFP ポートは 100Mb/秒のネットワークでは動作しません。オーディオマニア向けのスイッチやアクセサリの中には、速度を遅くするものがあります。TAIKO Audio のスイッチとルーターは 1 ギガビット対応です。

2.7 安全上のご注意

警 告！

他社製のフットを使用する場合には取り扱いに注意してください！

他社製フットは、本体シャーシ底部の四隅にあるフット位置にある窪みにのみ使用してください。この位置は本体の重量を安全に支えることができるように設計されております。特に、サーバーを上積み重ねた状態で I/O の下にフッターを使用すると、内部の構造的な損傷を引き起こす可能性があります。サードパーティー製フットは、取り付けたアクリルフッターの下に直接使用することも、アクリルフッターを取り外すこともできます。リセス（窪み）には M6（6mm）ネジがあり、M6 装備のサードパーティー製フットとの互換性があります。.

2.8 重要なヒント

注 意！

2.8.1 オリジナルの梱包材を保管する

サーバーは必ず元の梱包で輸送および保管してください。それ以外の梱包で輸送すると、サーバーが損傷し、保証が無効になる場合があります。サーバーを配送モードに設定する方法については、このマニュアルの別のセクションをご覧ください。

2.8.2 2 人で持ち上げる

サーバーは非常に重い（60 kg）ため、必ず二人以上で持ち上げてください。

2.8.3 電源オフの手順

前面パネルのボタンで電源を切った後、サーバー背面の主電源スイッチのみを使用してください。

2.8.4 USB スティック/USB ドライブを使用しない

USB ポートは外付けの USB メモリや USB メモリー用ではありません。音楽を転送する場合は、同じネットワーク上のコンピュータを経由して samba ネットワーク転送を使用してください。詳しい手順については、Taiko Audio ウェブサイトのダウンロードセクションにある別冊「ストレージ移行ガイド」をご参照ください。

2.8.5 ソフトウェアのインストール禁止

サーバーに他のソフトウェアをインストールすることは、音質を劣化させ、サポートの負荷を増大させる可能性があるため、厳禁です。

3 設置

以下の段落では、サーバーおよび/または I/O を安全な方法で設置するための方法を述べます。

3.1 設置場所

設置場所については、次の条件を満たす場所、状態に設置してください:

- 平らで安定した表面
- 乾燥した環境であること
- 上部に少なくとも 7.5cm、側面に少なくとも 5cm の換気スペースがあること

3.2 最高の音質を得るためのヒント

本サーバーで可能な限り最高のオーディオ品質を実現するために、以下のヒントに従うことをお勧めします:

- アナログとデジタルのインターコネクトケーブルは、本質的に特性が異なります。アナログとデジタルのインターコネクトケーブルは、アナログ、デジタル専用のケーブルをご使用ください。
- Olympus サーバーと I/O は、AC 電源の品質にはあまり敏感ではありません。しかし、電源ケーブルは、コモン・グラウンド接続を介して、電源分配器の電流引き込みを変調し、チェーン内の他のコンポーネントに影響を与えるため、依然として可聴域に影響を与えます。良質な電源ケーブルの使用をお勧めします。
- 接続部の一部が熱くなることなく、連続 2kW の電力を供給できるコンセントを使用してください。
- 実験目的でヒューズを交換することはお勧めしません。
- ヒューズを交換する必要がある場合、新しいヒューズは同じ定格のものでなければなりません。
- 主電源配線を介してローカル・エリア・ネットワーク接続を提供するデバイスは避けてください。
- 推奨される Roon 設定の詳細については、Taiko Audio ウェブサイトの「Recommended Roon Settings」ドキュメントもご参照ください。

3.3 Olympus サーバーの接続

サーバーを接続するには、以下の手順を実行します:

1. 電源ケーブルを電源ポートに接続します。
2. 電源ケーブルのもう一方の端を適切な電源（国によって異なりますが、AC100 ~ 250V）に接続します。
3. ネットワークケーブルの一端をホームネットワークに接続します。
4. ネットワークケーブルのもう一方の端を SFP LAN ポートに接続します。付属の RJ45-SFP アダプタを使用すれば、RJ45 コネクタを持つ通常の LAN ケーブルを接続することができます。
5. XDMM アナログボードが装着されている場合、アナログインターリンクをプリアンプまたはインテグレートッド アンプに接続します。XDMM デジタルボードが装着されている場合、デジタルインターリンクを D/A コンバーターに接続します。

6. サーバーには、外部 D/A コンバーターを接続するための USB ポートもあります。最高の音質を実現するために、XDMI との併用をお勧めします。.

この段階でサーバーと関連機器との接続は完了しました。

3.3.1 オプション: グラウンド・ポスト

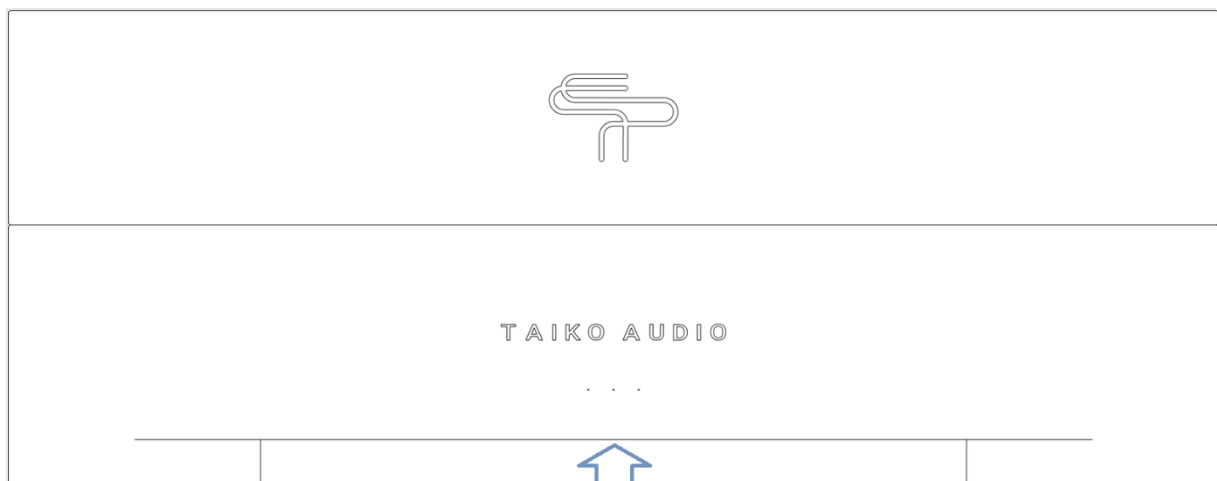
グラウンディング（接地）は必須でも推奨でもありませんが、特定の使用例を容易にするために、Olympus サーバーと I/O にはアースを目的としたバインディングポストが取り付けられています。

3.4 電源スイッチとスタンバイボタンの位置

Olympus サーバーと I/O の両方には、背面に主電源(AC)スイッチがあります。

さらに Olympus サーバーには、前面パネルの下側にオン/スタンバイボタンがあります。

オン/スタンバイボタンの位置は、以下の青い矢印で示されています。

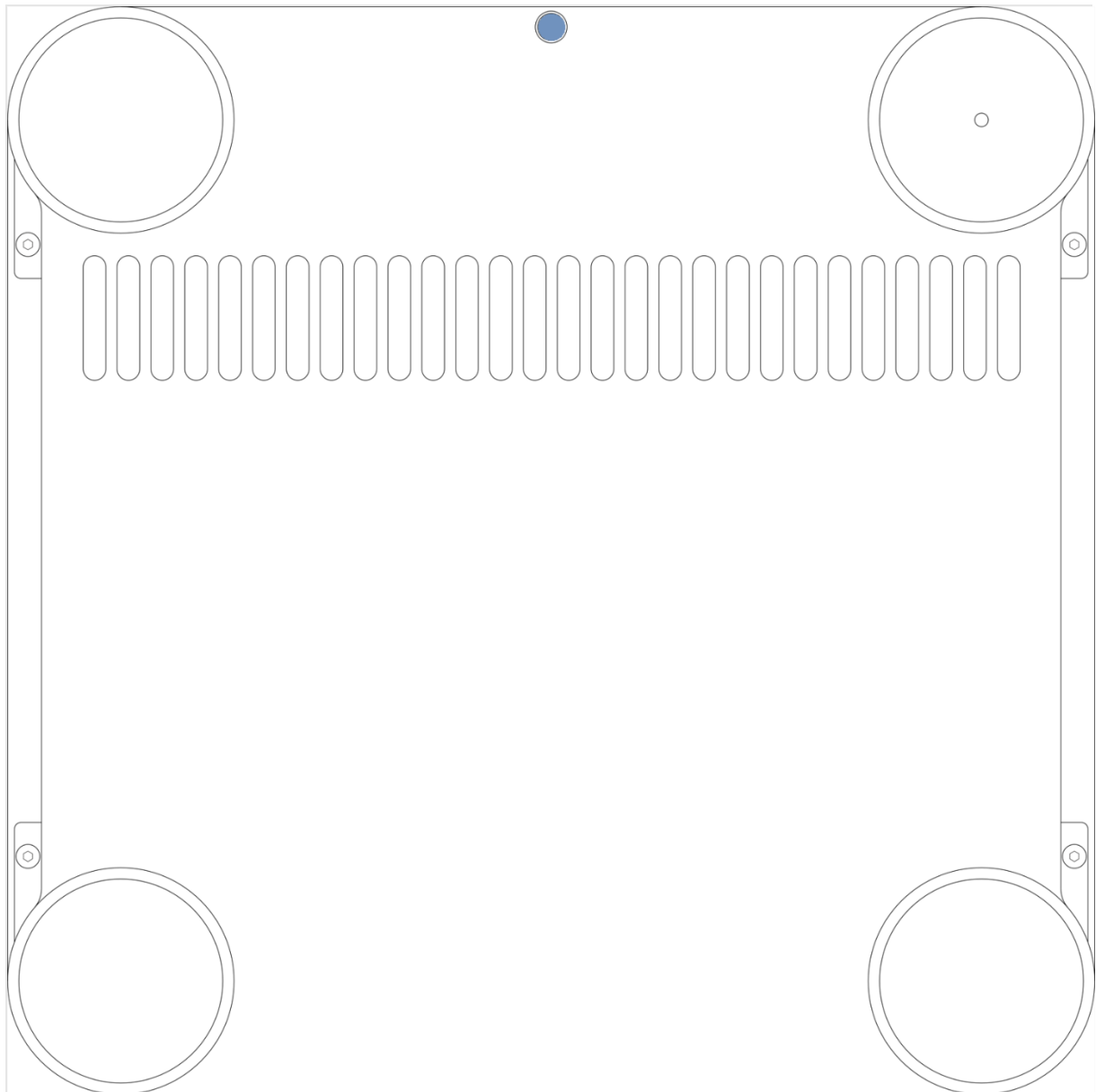


オン/スタンバイボタンは、オペレーティングシステムを交互に起動またはシャットダウンし、サーバーをスタンバイ状態にします。

スタンバイ状態では、バッテリーはまだ充電されています。このボタンを短く押すと、オペレーティング・システムが起動するか、シャットダウンしてサーバーがスタンバイ状態になります。スタンバイ状態では、バッテリーはまだ充電されています。ボタンを長押しすると、OS がハードシャットダウンされます。

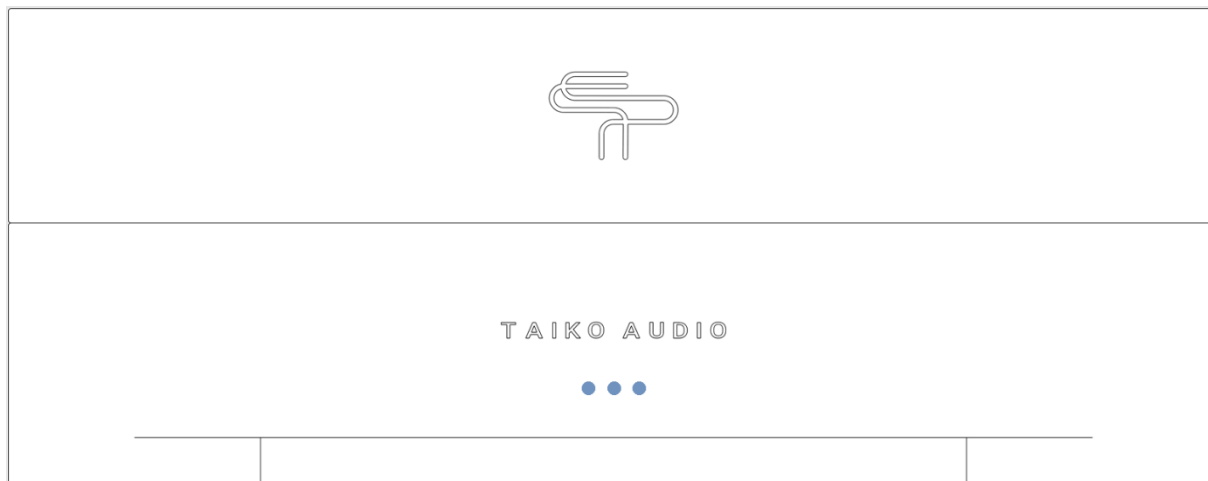
サーバーと I/O は、常に主電源に接続されていることが前提です。通常の日常使用では、サーバーのフロントパネルのスタンバイボタンのみを使用してください。

Olympus サーバーの底面から見た、オン/スタンバイ ボタンの位置。青い円で示されています。



Olympus サーバー・フロントパネル - 3つのステータス LED の位置

サーバーのフロントパネルには 3 つの LED があり、それぞれが特定のセクションのステータスを示します。



LED1 (左) = XDML バッテリー

LED2 (中央) = OS の状態

LED3 (右) = システムバッテリー

一般的に、LED が点灯している場合はステータスが OK であることを示し、LED が点滅している場合は注意状態（通常は起動中または充電中）を示します。フロント・パネルの LED は、点滅の動作によって他の様々なシステム状態を示します。LED ステータスの章または BMS アプリマニュアルを参照してください。

3.5 Olympus サーバーのオンとオフの切り替え

3.5.1 Olympus サーバーの電源を入れる

初めてサーバーの電源を入れるには、次のようにします:

1. 背面の主電源スイッチをオンにします。
2. フロントパネルのボタンを押します。オペレーティングシステムが起動します。約 20 秒後、中央の LED が点灯し、オペレーティングシステムが起動したことを示します。サーバーが完全に動作するようになるには、さらに約 10 秒が必要です。サーバーがルーチンを完了すると、アナログ XDML ボードをインストールしている場合は、リレークリック音が聞こえます。Digital、Lampizator、MSB XDML ボードを使用している場合は、クリック音はありません。スタートアップルーチンが終了すると間もなく、Roon Control Point アプリが自動的に接続されます。これで、サーバーを使用する準備が整いました。

注 意！

運転中、本機は完全に無音であるべきです。ノイズが聞こえる場合は、本機のスイッチを切り、原因を探ってください。

3.5.2 Olympus サーバーの電源を切る

サーバーの電源を切るには、次のようにします:

1. フロントパネルのボタンを一瞬押します。数秒後に中央の LED が消灯し、OS がシャットダウンされ、サーバーがスタンバイモードになったことを示します。バッテリーはまだ充電されています。
 - a. 正確な時間は、Roonデータベースのサイズや、システムが様々なRoonエレメントや実行中のタスクを終了するのにかかる時間によって多少異なります。Roonデータベースのサイズが小さく、実行中のシステムタスクがない場合、シャットダウンにかかる時間は5秒未満です。
 - b. 電源ボタンを押すと、Roonリモートはすぐに接続を失い、システムがシャットダウンすることを示します。
 - c. ボタンを長押し（5 秒以上）すると OS が強制終了（ハードシャットダウン）するので、通常は長押ししません。OS がクラッシュして応答しなくなった場合にのみ長押しします。

3.6 Olympus I/O のオンとオフの切り替え

3.6.1 Olympus I/O のスイッチオン

I/O をオンにするには、次のようにします:

1. 背面の主電源スイッチをオンにします。起動時間はなく、すぐに電源が入ります。フロントパネルの LED が点灯し、2 つのバッテリーセクションのそれぞれのステータスを示します。

注 意 !

運転中、本機は完全に無音で稼働します。ノイズが聞こえる場合、本機のスイッチを切って原因究明を試みてください。

I/O のフロントパネルには 2 つの LED があり、それぞれユニットの特定のセクションのステータスを示します:

LED1 (左) = XDMI バッテリー

LED3 (右) = ネットワークカードバッテリー

一般に、LED が点灯している場合は本機の状態が正常です。点滅している場合は注意状態（通常は起動中または充電中）です。フロントパネルの LED は、その点滅動作によって他の様々なシステム状態を示します。LED ステータスの章または BMS アプリマニュアルを参照してください。

3.6.2 Olympus I/O の電源を切る

BPS システムが充電サイクルを維持できるように、I/O の電源は通常オンのままにしておきます。I/O の電源を一時的に切るには、主電源スイッチを OFF の位置に切り替えます。電源が抜かれている状態で数時間以上放置すると、電池は消耗します。

3.7 出荷モード (Shipping Mode)

サーバーまたは I/O が主電源から 2 時間以上切り離されることが予想される場合、出荷モードに設定することができます。これは TAIKO が本社から出荷する時の方法です。Shipping Mode を選択すると、コンデンサが放電され、マザーボードと XDMI カードがシャットダウンされます。この後、本機を安全に長時間切断されたままにしておくことができます

1. フロントパネル下のボタンを押して、サーバーのオペレーティングシステムをシャットダウンします。中央の LED が点灯していることを確認します。I/O はこの限りではありません。
2. 背面スイッチで電源を切ります。
3. AC 電源ケーブルを取り外します。
4. バッテリーセクションがシャットダウンするまで約 2 分間待ちます。本体の穴のあいた上部から前面右側の部分を覗くと、緑色のランプが消灯します。
5. BMS アプリを使用し、各ユニットの独立したバッテリーセクションの出荷モードを選択します。

主電源を再接続すると、サーバーは自動的に配送モードから切り替わり、通常の使用の準備が整います。

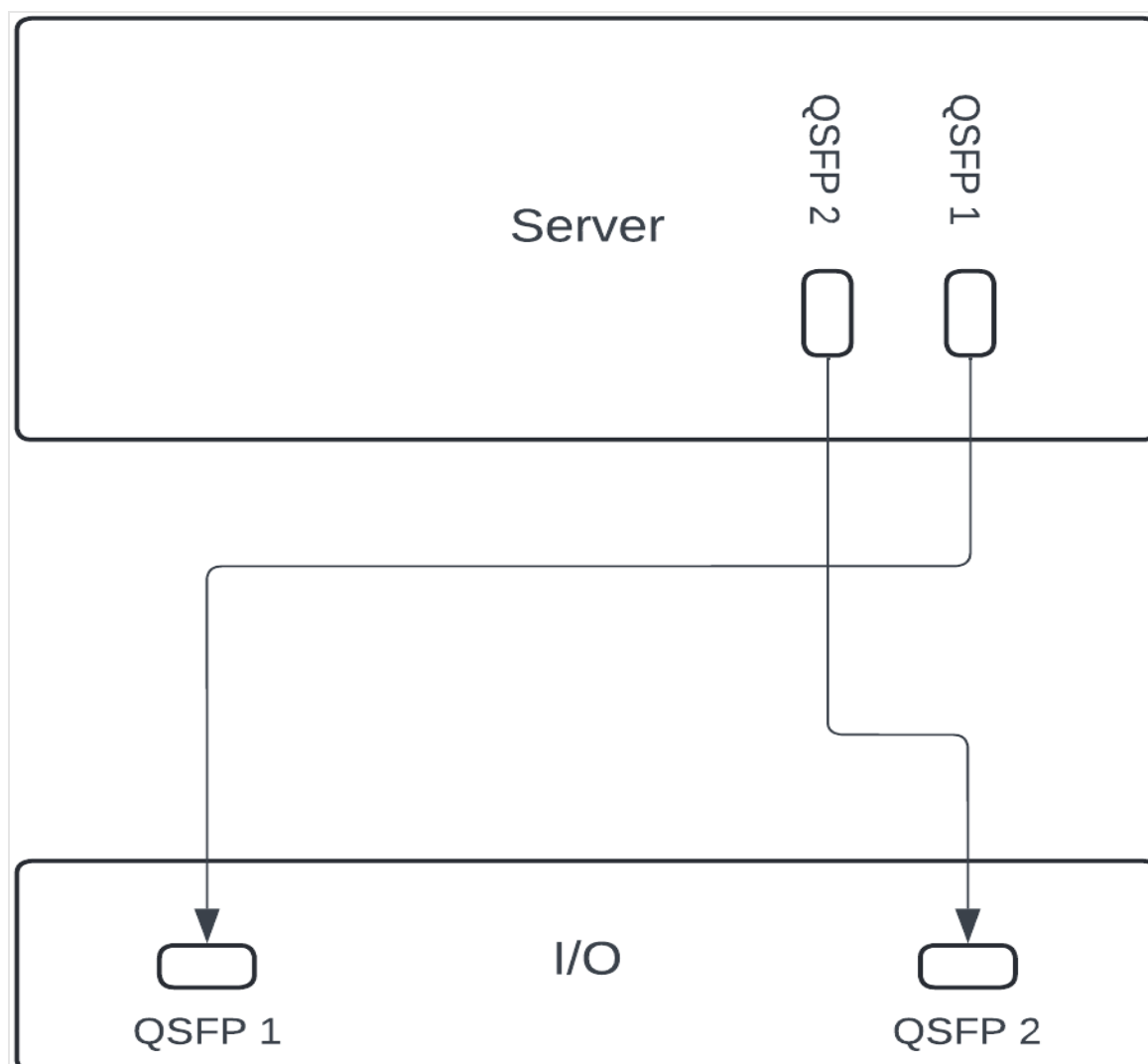
3.8 Olympus サーバーと Olympus I/O の接続

Olympus サーバーと Olympus I/O をセットでご購入いただいた場合、QSFP Interface 拡張カードと XDMI 出力カードがあらかじめ装着された状態で出荷されます。セットが届きましたら、ケーブルを接続するだけです。

3.8.1 QSFP カードの接続

インストール後、付属の QSFP DD ケーブル 2 本を使用して、Olympus サーバーの 2 枚の QSFP Interface カードと Olympus I/O の QSFP Interface カードを接続します。

下図に示すように、2 つのコネクターの順序は、I/O とサーバーとで 1 と 2 の位置が逆になっていることにご注意ください。



Olympus サーバーの QSFP1（XDMI オーディオ信号）を I/O の QSFP1 に接続し、サーバーの QSFP2（ネットワーク信号）を Olympus I/O の QSFP2 に接続します。

3.8.2 プリアンプ、内蔵アンプ、DAC を接続する

- XDMS Analog Output Card が装着されている場合、そのアナログ出力 をプリアンプまたはインテグレートッドアンプに接続します。プリアンプにバランス XLR 入力しかない場合、RCA - XLR アダプターを使用してください。
- XDMS Digital Output Card が装着されている場合、デジタル出力端子を D/A コンバーターに接続してください。

4 Roon の設定

4.1 アプリとの接続

サーバーを使用するには、Roon アプリが必要です:

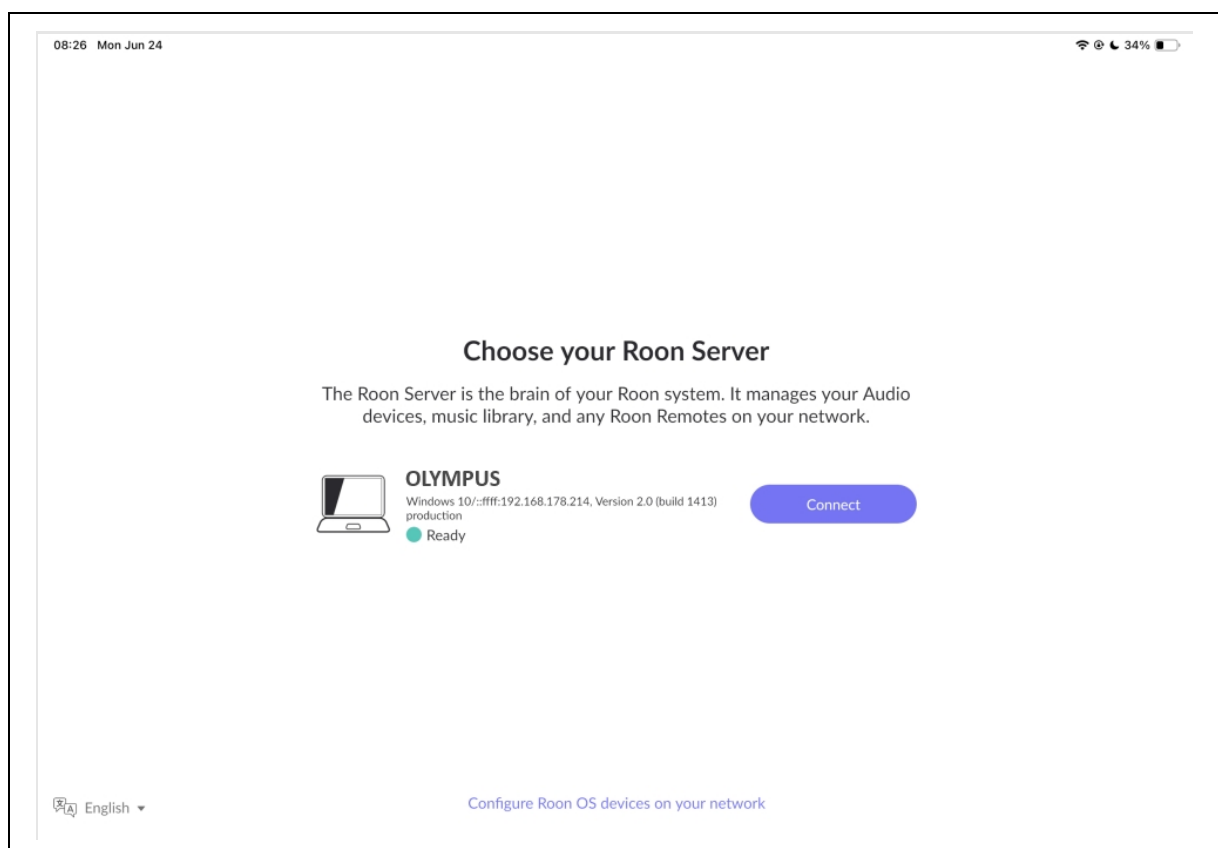


App Store、Play Store、または www.roonlabs.com で Roon をダウンロードしてください。iPad または iPhone をお勧めします。Android モバイル・デバイスや MAC、Windows デスクトップ、ラップトップにも対応しています。

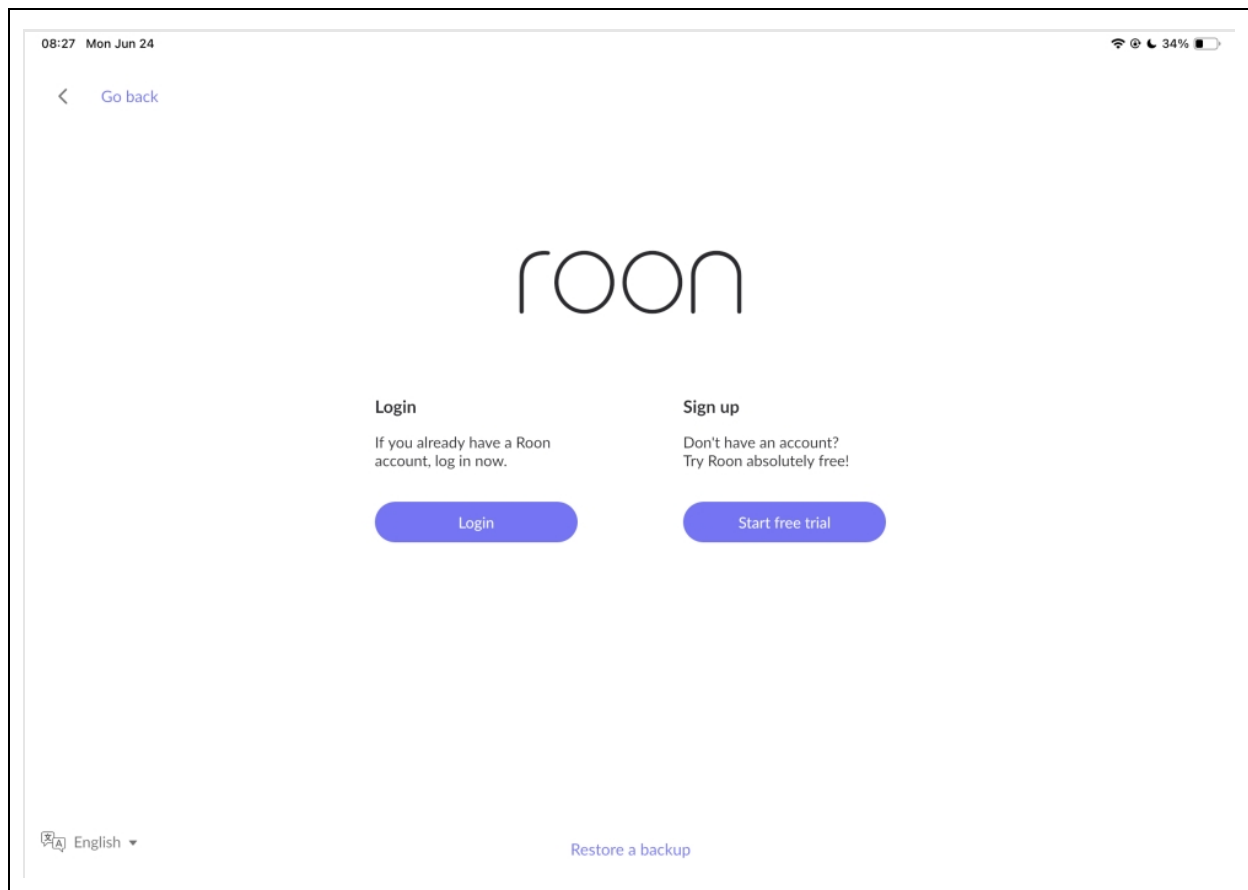
アプリでサーバーに接続するには、次のようにします:

1. サーバーの電源を入れます
2. コントロール・デバイス（通常は iPad）で Roon アプリを開きます。アプリを実行するデバイスがサーバーと同じネットワークに接続されていることを確認してください。

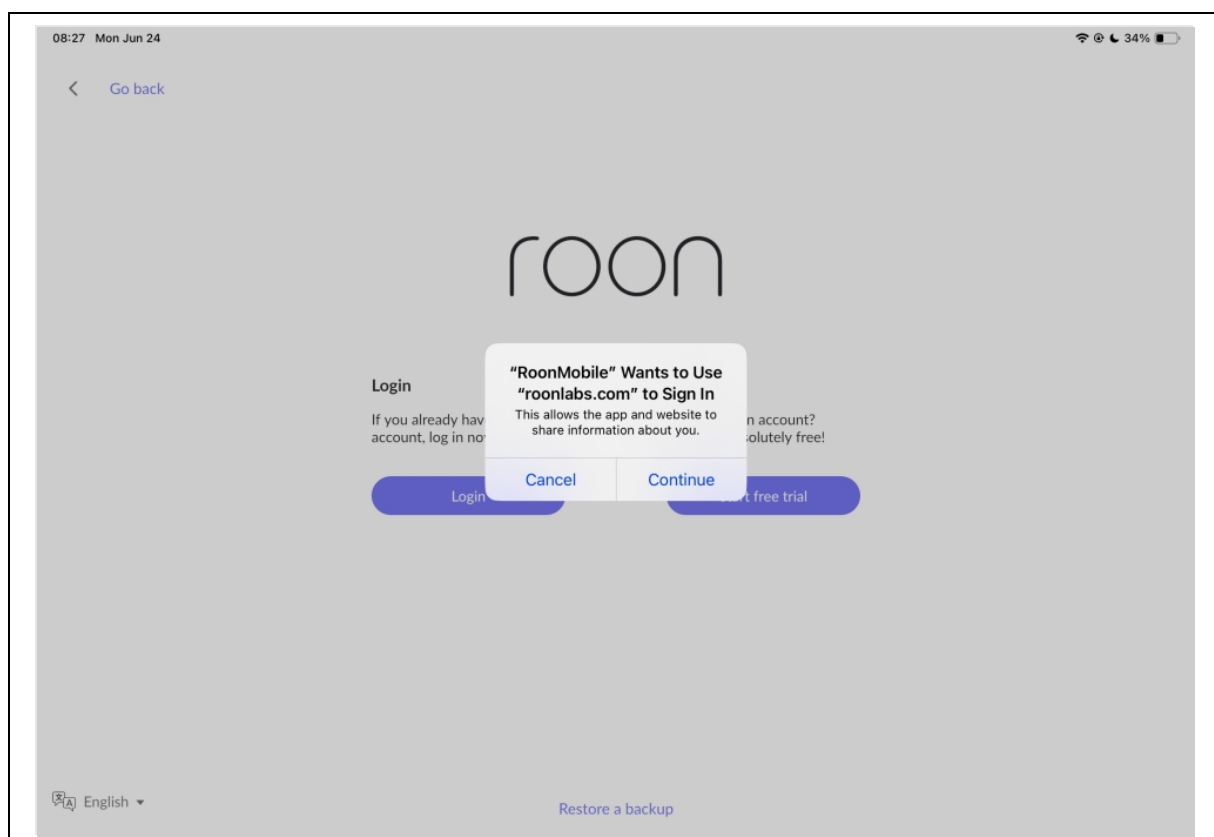
アプリがデバイスの検索を開始します。OLYMPUS-----がアプリに表示されます。
(例: OLYMPUS21100)



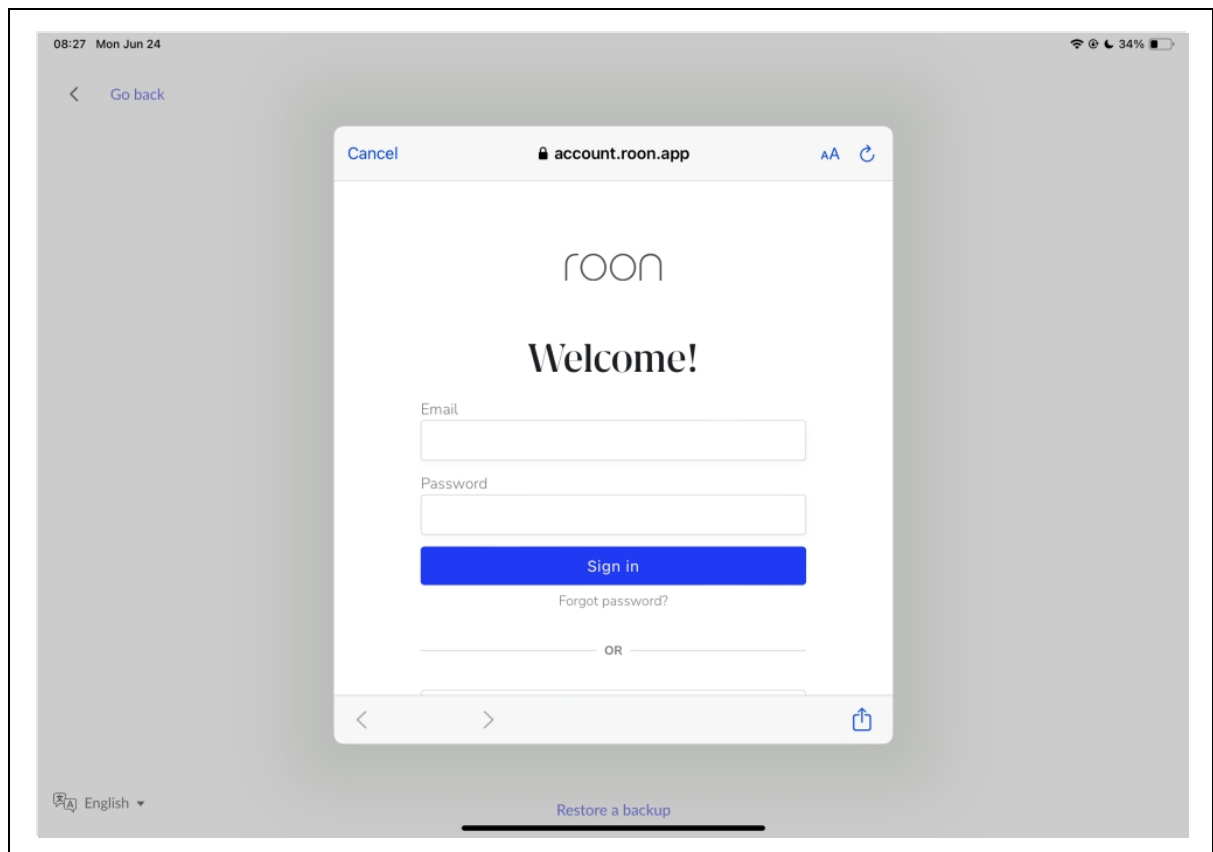
3. Olympus の横にある Connect をクリックします。



4. Login をクリックします。



5. Continue をクリックします。



6. メールアドレスとパスワードを使って Roon アプリにサインインします。Roon のアカウントを持っていない場合は、前の画面で Start Free Trial をクリックし、アカウントを作成してください。

アプリがログインし、セットアップ画面が表示されます。

次に、アプリが音楽ファイルの場所を尋ねてきます。手順は次の章を参照してください。

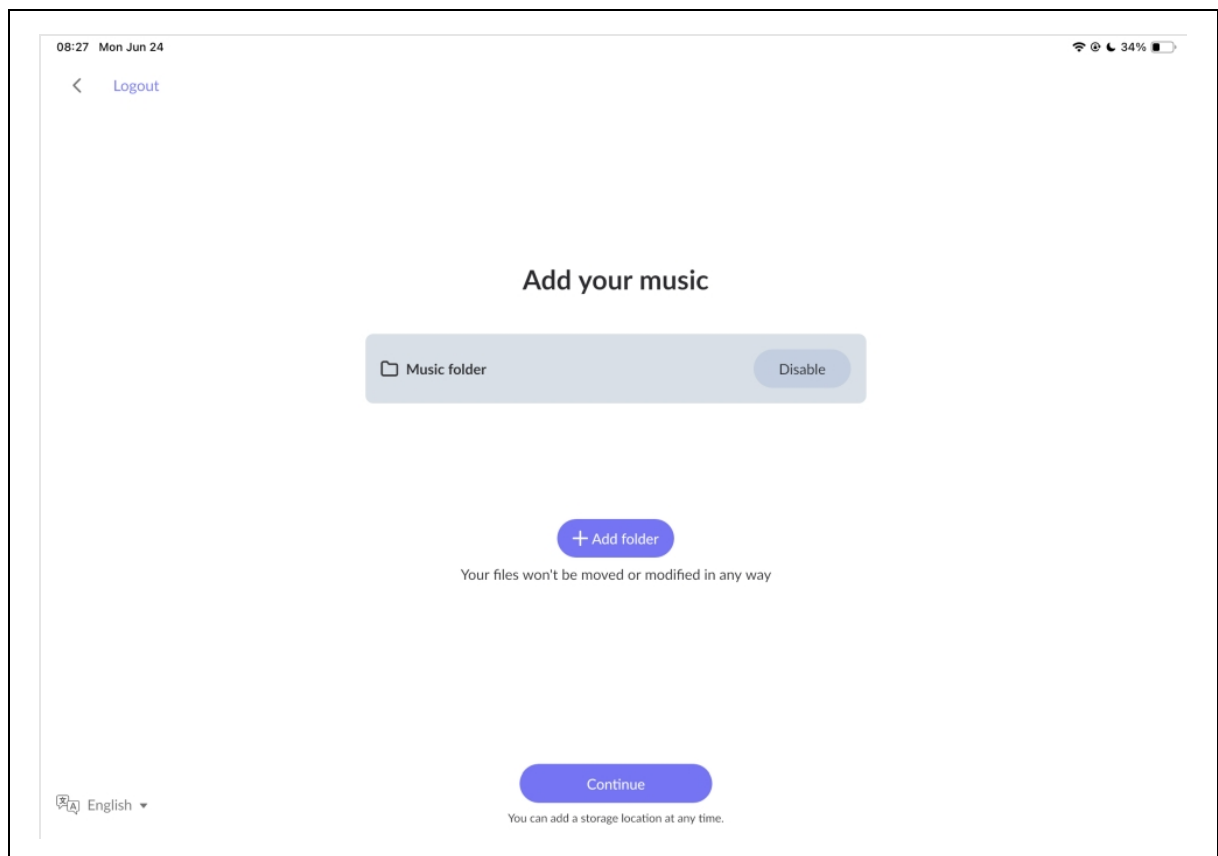
4.2 音楽ソースと出力の設定

ヒント：すべての設定は、後で追加または編集することもできます。

サーバーの内蔵ドライブにローカルに音楽を保存することも、NAS から直接音楽を再生することもできます。Olympus の音質については、どちらの方法で音楽を再生しても変わりません。

サーバーの内蔵ストレージ・ドライブを使用する場合は、音楽を転送する必要があります。Extreme から Olympus にアップグレードした場合、ドライブに互換性がないため、データの移行が必要です。詳しい手順については、弊社ウェブサイトのダウンロード・セクションにある「ストレージ移行ガイド」をご覧ください。

次に、Roon をミュージック・ストレージの場所に設定します。

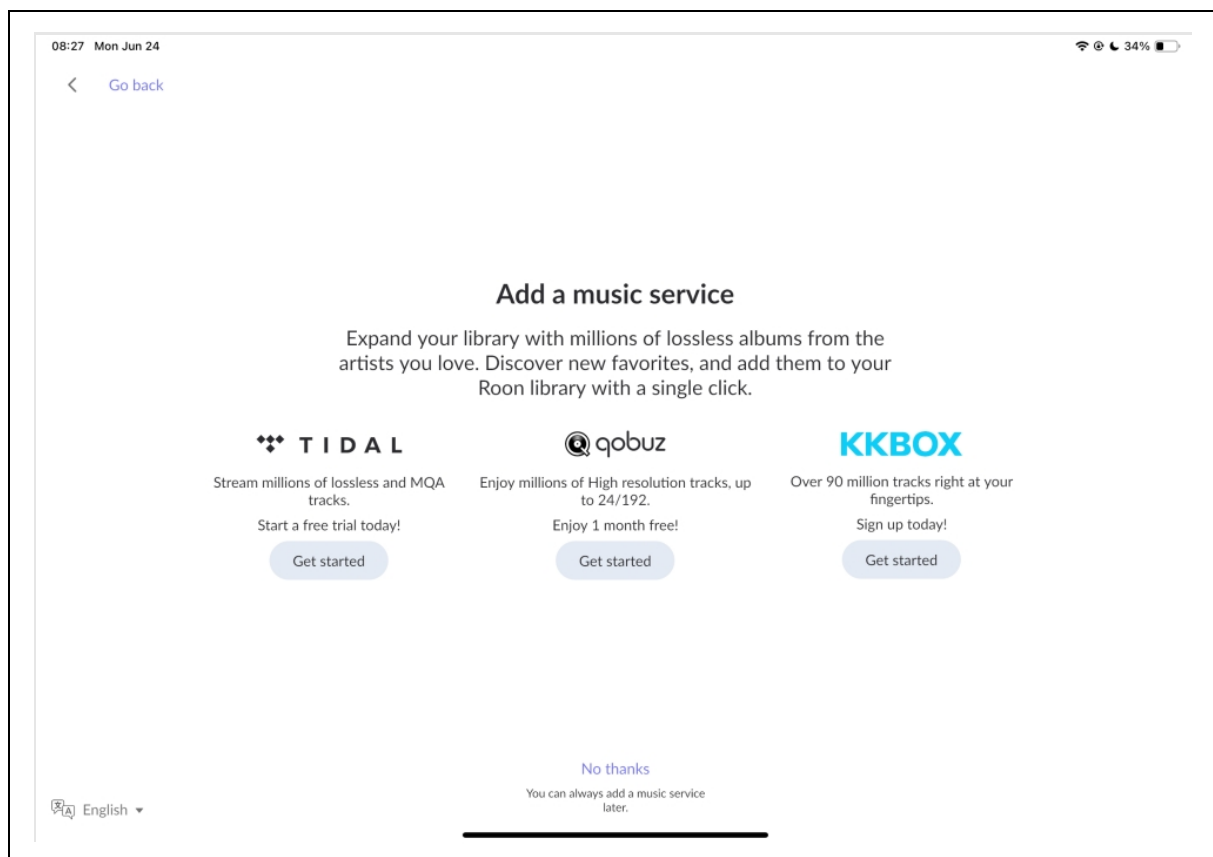


1. 該当する音楽ファイルの場所を追加します:
 - a. 音楽フォルダを無効にする(Disable)をクリックします。
 - b. Add Folder をクリックして、サーバーに保存されている音楽を選択します。
 - c. 内部の Olympus Music Drive D を入力します:
 - d. オプションで、「ネットワークフォルダーを追加」をクリックして NAS を追加します。
 - e. ネットワークパスを指定します。
2. 次へ(Next)をクリックします。

サポートされているストリーミングサービス (TIDAL や Qobuz など) のアカウントを持っている場合、サーバーをそれらのサービスに接続することができます。

ヒント：大きな音楽ライブラリのインポートには多くの時間がかかることを覚えておいてください。

アプリに音楽ストリーミングサービスが表示されます。



- ストリーミングサービスのアカウントをお持ちの方、または試してみたい方は、選択したサービスの開始ボタンをクリックしてください。

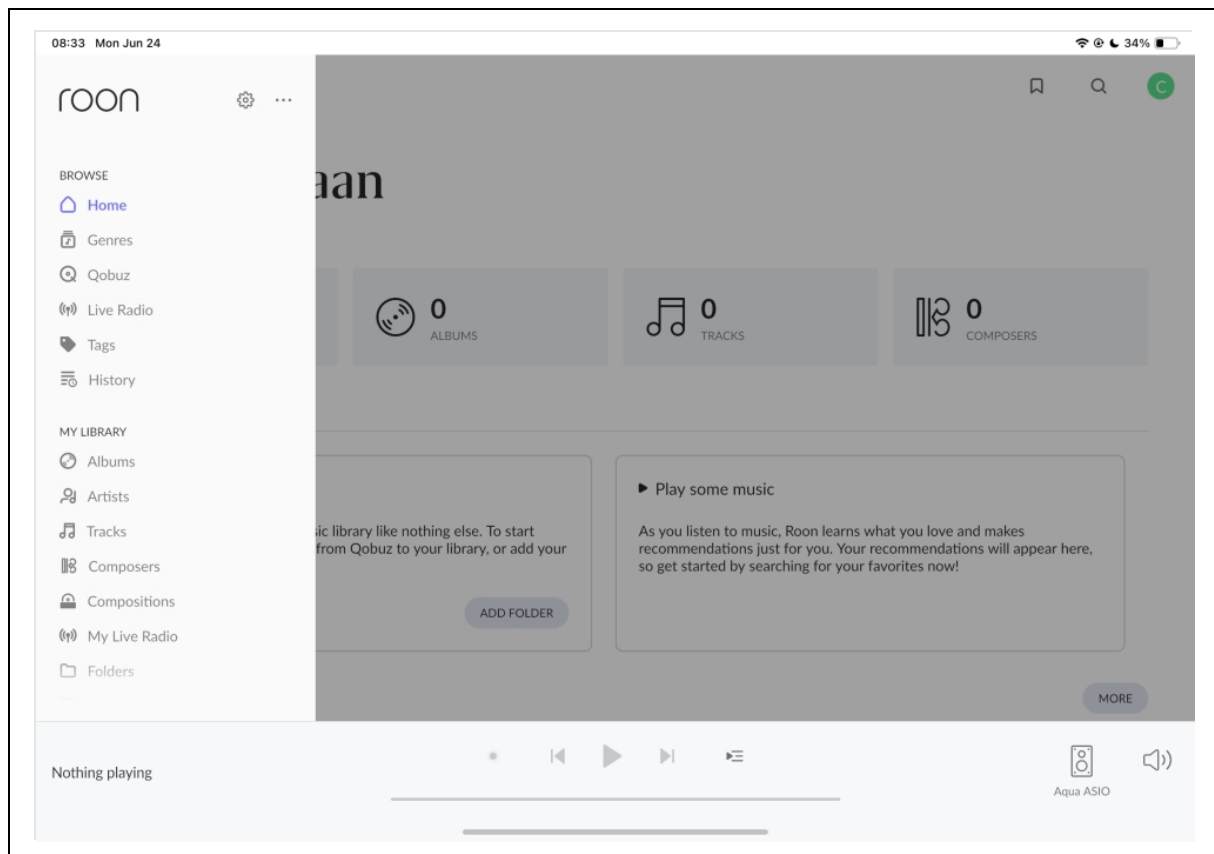
これで初期設定は完了です。

次に、アプリが音楽ライブラリの設定を開始します。

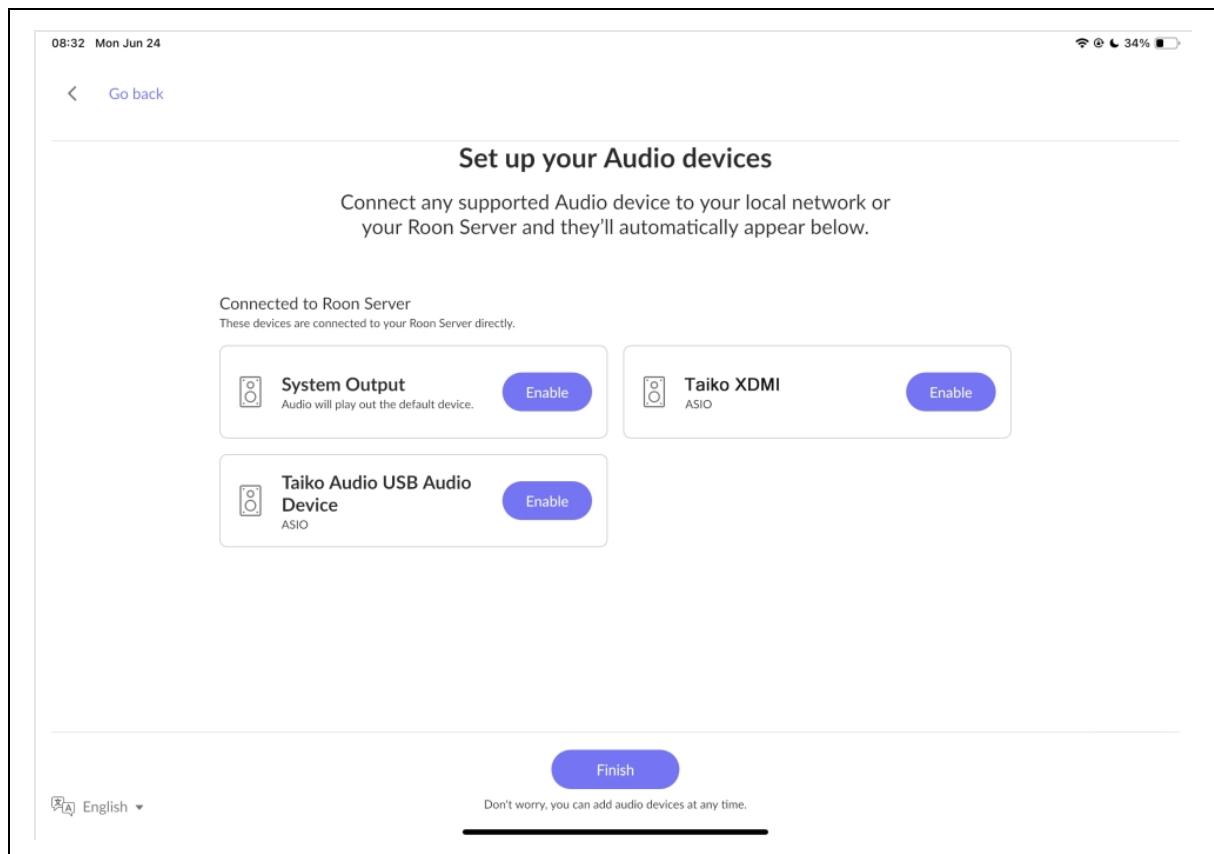
ヒント： アプリが音楽ライブラリをセットアップしている間でも、音楽を聴くことは可能です。ただし、セットアップ中に音質を評価することはお勧めしません。システムがライブラリをセットアップしているため、音質が低下します。

アプリが音楽ライブラリの設定を完了したら、DAC をアプリに接続できます。

DAC を接続するには、次の手順に従ってください。



1. 上部の設定「歯車」ボタンをクリックします。.
2. Audio をクリックします。オーディオ設定画面が開き、使用可能なすべての出力ゾーンが表示されます。「Connected to Roon Server」の下に DAC が表示されます。.



3. 出力を探し、有効にする(Enable)をクリックします。

注 意! 最高の音質を得るためには、一度に 1 つの出力のみを使用することをお勧めします。一度に複数の出力を有効にしないでください。音質が極端に低下します。

4. DAC の横にある有効にする(Enable)をクリックします。 .

5. 画面下部のオーディオゾーンを選択(Select an Audio Zone)をクリックします。ゾーン画面がポップアップします。

6. お好みのゾーンを選択します。

DAC がアプリに接続されました。

お知らせ Roon でのリアルタイム DSD アップサンプリングはサポートされていません。

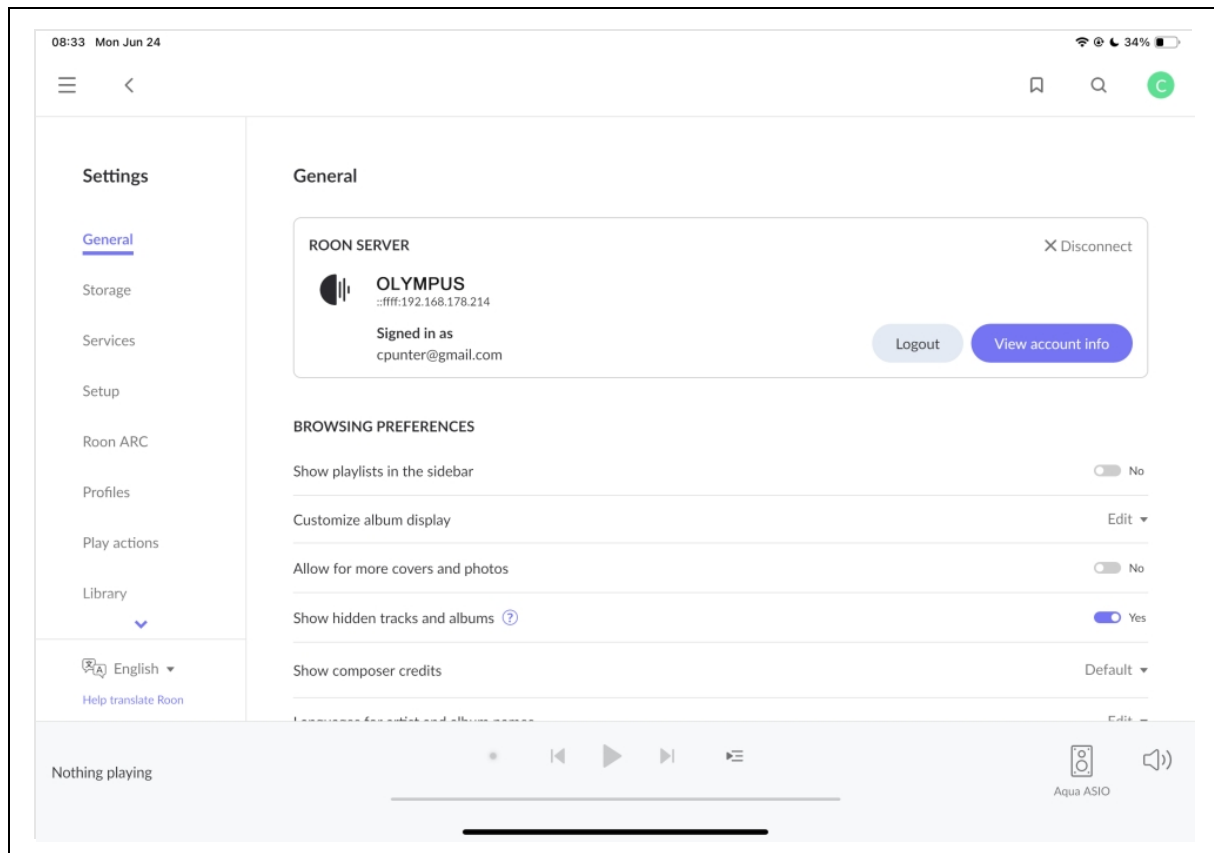
Olympus とその XDMI インターフェースはビットパーフェクト設計です。アップサンプリングを有効にすることは可能ですが、XDMI が提供するメリットのほとんど（すべてではないにせよ）を否定することになります。

ヒント 推奨される Roon の設定

Roon から最高のサウンドを得るために、追加の設定を行うこともできます。詳しくは、Taiko Audio ウェブサイトのダウンロードセクションにある「Roon の推奨設定」をご覧ください。

4.3 サーバーのファイル構造にアクセスする

ファイル構造にアクセスすることで、サーバーに直接音楽を追加することができます。



ヒント サーバーの名前と IP アドレスが必要です。この情報は、Roon アプリの設定メニューの General セクションの Olympus の下にあります。また、Fing のようなアプリを使用して IP アドレスを見つけることもできます。

4.3.1 MacOS

MacOS コンピューターからサーバーのファイル構造にアクセスするには、以下のようにします：

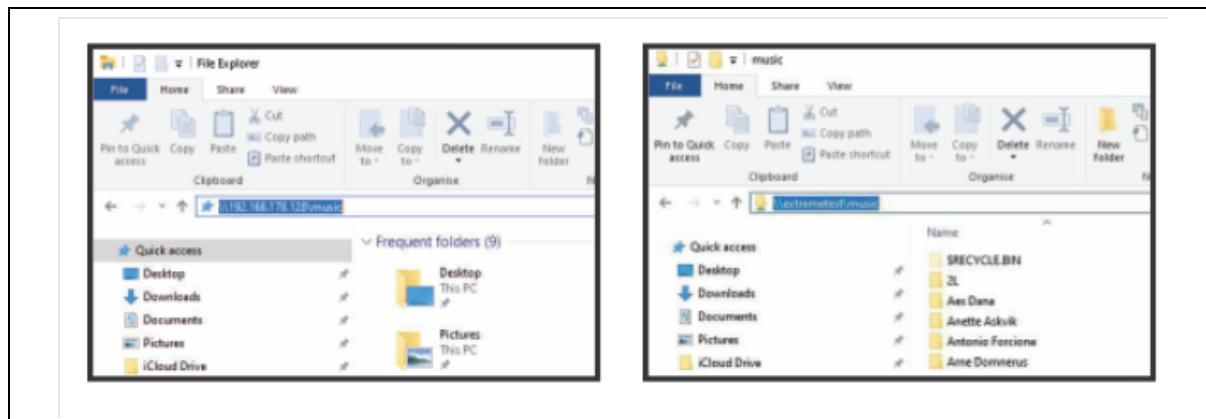
1. Finder を開きます。
2. Command + K を押すと新しいウィンドウがポップアップ表示されます。
3. Olympus サーバーの IP アドレスを次のように入力します: "smb://[IPADDRESS]", 例えば: "smb://192.168.1.120"
4. Connect (接続) をクリックします。
5. サーバーの名前とパスワードを以下のように入力します:
 - Login: Olympus (Extreme のログインとは異なることに注意してください)
 - Password: SoundTest
6. *Registered user* (登録ユーザー) をクリックします。
7. Connect (接続) をクリックします。コンピュータがサーバーのデスクトップと接続します。
8. Finder でサーバーのドライブを選択します。
9. OK をクリックします。

これで、コンピューター上のサーバーのフォルダー構造を見ることができます。

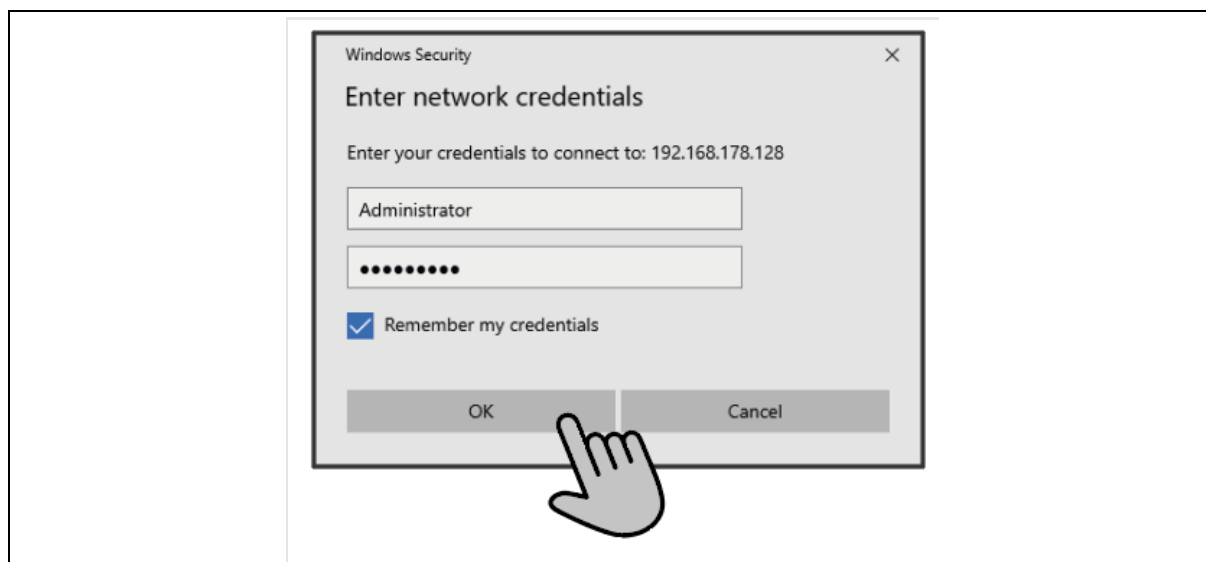
4.3.2 Windows

Windows コンピューターからサーバーのファイル構造にアクセスするには、以下のようにします:

1. Explorer を開きます。



2. サーバの IP アドレスまたは名前を続けて入力し、Enter キーを押します。



3. サーバーの名前とパスワードを入力します。

これで、コンピューター上のサーバーのフォルダー構造にアクセスできるようになります。

4.4 サーバーのデスクトップへのアクセス

Extreme サーバーとは異なり、Olympus サーバーではデスクトップや OS へのアクセスは不要です。Extreme サーバーには、デスクトップからロードできる 4 つの USB プロファイルが搭載されていましたが、Olympus ではその必要はありません。変更やアップデートが必要な場合は、外部から、または Olympus のサポート・チームの支援を受けながら行うことができます。

4.5 Roon の詳細

Roon には、このマニュアルで紹介しきれないほど多くの機能があります。Roon に関するすべての情報は、<https://kb.roonlabs.com/> をご覧ください。

4.6 ソフトウェアのアップデート

サーバーには、必要なソフトウェアとドライバがすべて付属しています。Roon のアップデートは自動的にプッシュされ、Roon Control Point 経由でインストールできます。Taiko 固有のアップデートをインストールする必要がある場合は、弊社がリモートで接続し、アップデートを行います。

5 Technical Information

5.1 Specifications

Olympus サーバー・コア・スペック

AMD Threadripper 24-core

64Gb メモリ

2x BPS

1x PS 充電装置

8x Regulator

大型ヒートシンク採用、ファン無しの設計・アルミブロックからの切削加工

Olympus I/O コア・スペック

2x BPS

1x PS 充電装置

ストレージ情報

オリンパス・サーバーは u.3 ドライブを 1 台搭載可能で、4TB から 60TB までのサイズが用意されています。

内部ストレージはオリンパス専用で、m.2 タイプの既存の Extreme サーバー・ストレージは移動不可。Extreme から Olympus にアップグレードする場合、データの移行が必要です。詳しい手順については、弊社ウェブサイトのダウンロードセクションにある「ストレージ移行ガイド」をご覧ください。

出力モジュール

出力モジュールは、新しいフォーマットが考案された場合、簡単に交換することができます。現在利用可能なのは、アナログ出力 DAC モジュール、AES/EBU + SPDIF デジタルモジュール、MSB または Lampizator DAC 用のカスタム実装です。

アナログ出力スペック

出力電圧：2.8V RMS

出力電流：50 mA

出力インピーダンス：100 Ω

接続 – Olympus サーバー

標準接続には、Olympus 専用 USB カードと Olympus 専用ネットワークカードが含まれます。Extreme サーバーの USB カードおよびネットワークカードは、Olympus では使用できません。

Olympus サーバーは、XDMI 出力カードを 1 枚ずつ装着することもできます。装着されている XDMI モジュールに応じて、以下のいずれかを同時にインストールすることができます：

- 1) USB+SPDIF (RCA) + AES/EBU、または別の XDMI モジュールを 3 つの動作出力として使用可能
- 2) USB + RCA アナログ出力 (2ch 出力)

USB ポートは外付け USB メモリーや USB メモリには対応していませんのでご注意ください。
Olympus に音楽を追加する詳細な手順については、「ストレージ移行ガイド」をご覧ください。

接続 – Olympus サーバーと Olympus I/O

Olympus サーバーを I/O と組み合わせた場合、サーバーと I/O はそれぞれ 2 つの 400Gbps QSFP-DD インターフェイスカードを搭載し、2 本の 800Gbps QSFP-DD パッシブダイレクト アタッチ銅ケーブルで相互接続されます。

接続 – Olympus I/O

Olympus サーバーと I/O は、それぞれ 2 枚の 400Gbps QSFP-DD インターフェイスカードを搭載し、2 本の 800Gbps QSFP-DD パッシブ・ダイレクト・アタッチ・銅ケーブルで相互接続されています。

Olympus I/O では、一度に 1 つのアクティブな XDML 出力を持つことができます。以下のいずれかを使用できます：

- 1) RCA の SPDIF + AES/EBU を 2 つの動作出力として使用
- 2) RCA のアナログ出力を 1 つの動作出力として使用
- 3) カスタム DAC インターフェイス (Lampizator や MSB など)

サポートされているサンプルレート

XDML デジタル出力(AES/EBU):

Up to 24bit/192kHz、up to DSD64 via DoP (AES/EBU は Native DSD をサポートしません)

XDML アナログ出力:

Up to DSD512、PCM 32/768kHz

DAC は DoP と Native DSD の両方をサポートします

USB 接続:

Up to DSD512 Native または Roon との組み合わせで DoP (DAC が Roon に対応している場合)

サポートされていないもの

Roon の DSD アップサンプリングはサポートされていません。

電力要件

1x Olympus 用主電源入力

1x Olympus I/O 用主電源入力

フューズ

5x20mm

Olympus 2A for 230/240V, 4A for 110V, slow blow.

I/O 1A for 230/240V, 2A for 110V, slow blow.

消費電力

通常 Olympus サーバーでは 45w.

充電の場合には充電状況によって異なるが、通常では Olympus で 150w、I/O で 100w

入力コネクタ

C15

アース端子 - Olympus サーバー

アースは必須でも推奨もされませんが、特定の用途に対応するため、Olympus サーバーにはアース用のバインディングポストが 2 つ装備されています。

リアパネルの AC 電源インレットの隣にある左側のバインディングポストは、充電器の AC-DC 電源に接続し、IEC インレットのアースピンを介してアースされています。

USB ポートの隣にある右側のアース端子は、デフォルトでフローティング状態になっているシャーシをアースします。

アナログ出力信号のグラウンドはシャーシに接続されています。

アース端子 - Olympus I/O

I/O のアース端子は、AC バッテリ充電電源とシャーシの両方をアースします。

I/O には信号グラウンドはありません。

モジュラー・フッター

Olympus と Olympus I/O には、シャーシにねじ込むアクリル製の調整・取り外し可能な脚部が付属しています。シャーシには、深さ 8mm、直径 90mm の 4 つのリセス(欠き取り部分)があり、M6 (6mm) スレッド (標準的な「粗い」1mm DIN スレッド) が取り付けられています。M6 スレッドは、M6 装備のアフターマーケットのフッターとの互換性があります。

第三者製造によるフッターの配置

警告!

第三者製造によるフッターは、四隅の所定の欠き取り部分にのみ使用してください。この位置は本体重量を安全に支えることができるように設計、加工されています。特に、サーバーを上にして積み重ねた状態で I/O の下に第三者製造によるフッターを使用する場合、底板の下に直接フッターを設置すると、内部に構造的な損傷を引き起こす可能性があります。第三者製造によるフッターは、取り付けたアクリルフッターの下に直接使用することも、アクリルフッターを取り外すこともできます。欠き取り部分には M6 (6mm) ネジがあり、M6 装備の第三者製造によるフッターとの互換性があります。

仕上げ

シルバーアノダイズド加工・ブラックアノダイズド加工

Olympus サーバー外寸

高さ: 190 mm (脚部込)

幅: 480 mm

奥行き: 480 mm

Olympus I/O 外寸

高さ: 105 mm (脚部込)

幅: 480 mm

奥行き: 480 mm

Olympus Server 重量

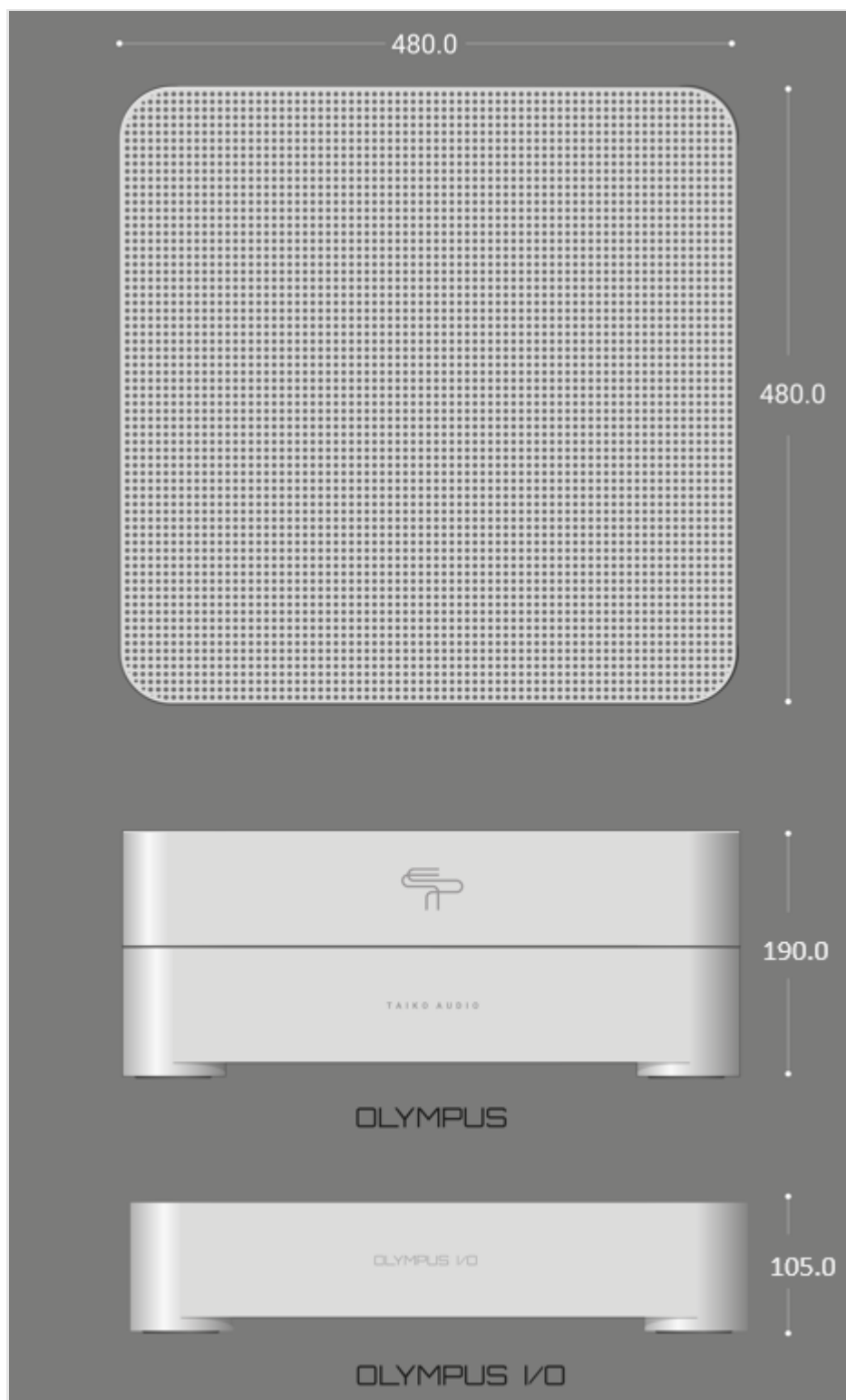
~ 60 kg

Olympus I/O 重量

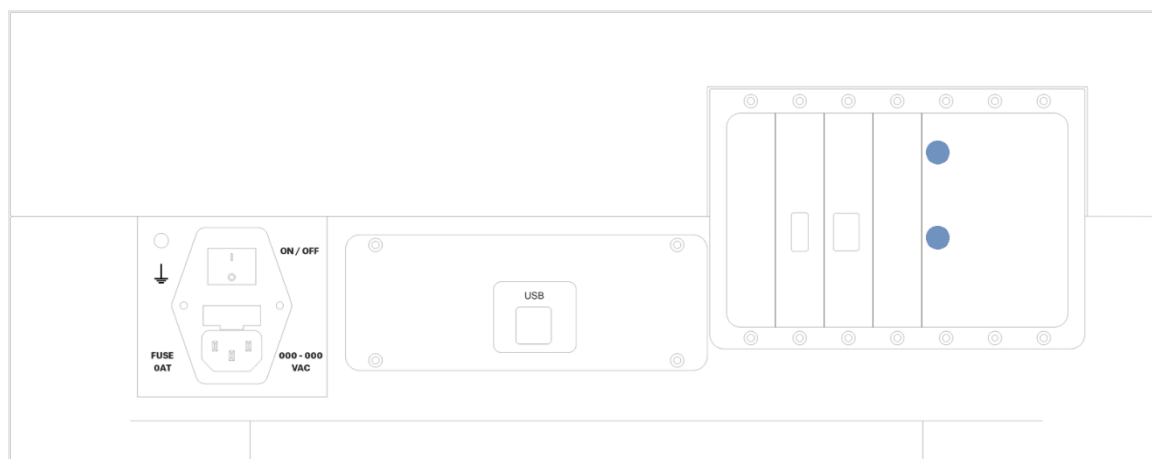
~ 25 kg

注 意！ サードパーティ製ソフトウェアのインストールは音質を低下させる可能性があるため、禁止されています。

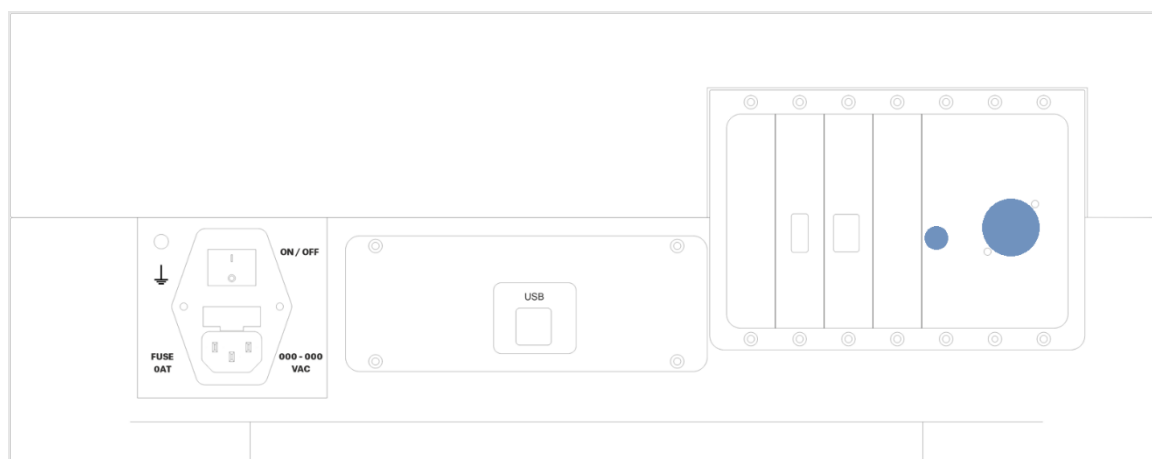
5.2 寸法



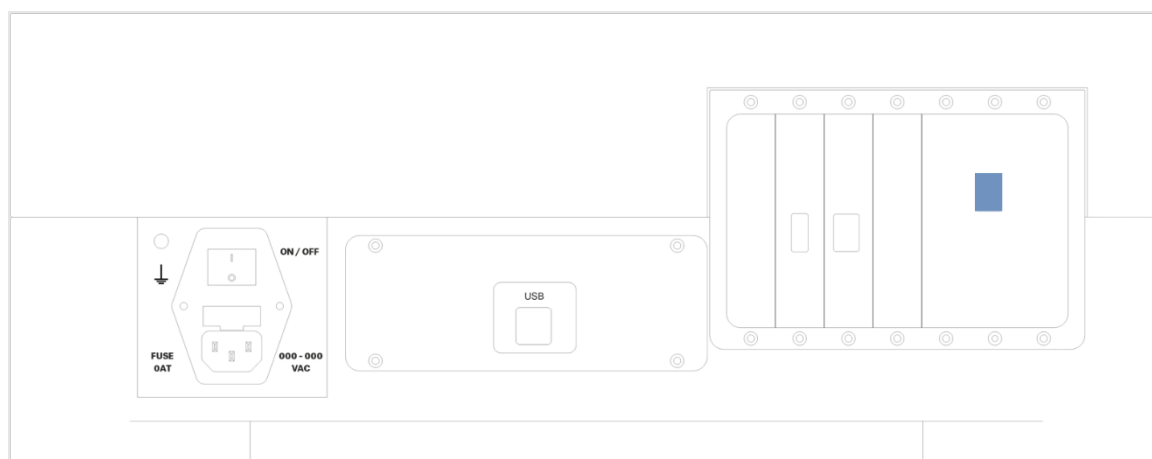
5.3 背面パネル図 – Olympus サーバー



上: アナログ出力 XDMI 装着の場合



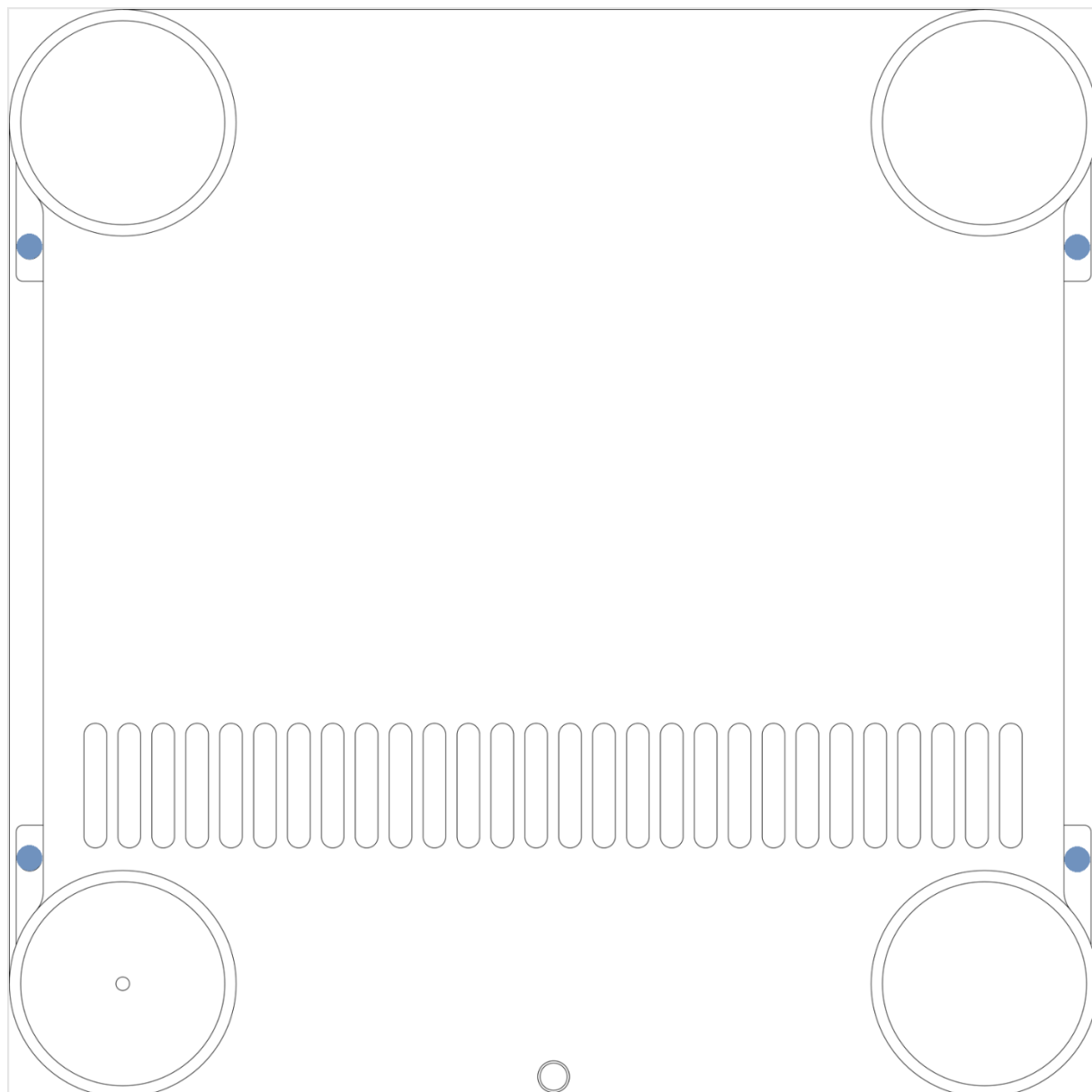
上: デジタル AES/SPDIF 出力 XDMI カード装着の場合



上: MSB Pro ISL 出力 XDMI カードを搭載したオリンパスの背面パネル

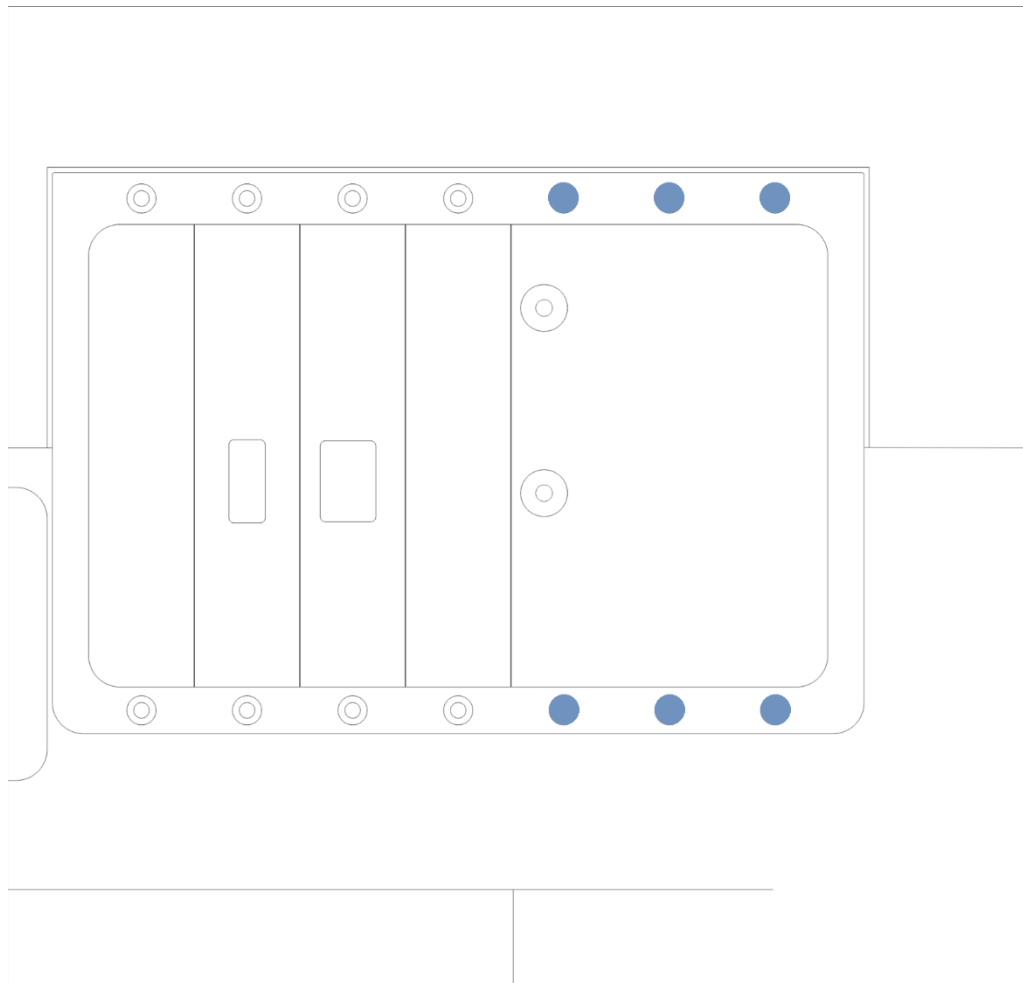
5.4 Olympus サーバー底面パネル図

サーバーの上部と下部を固定する 4 本の 4 mm 六角 (インバス) ネジの位置。



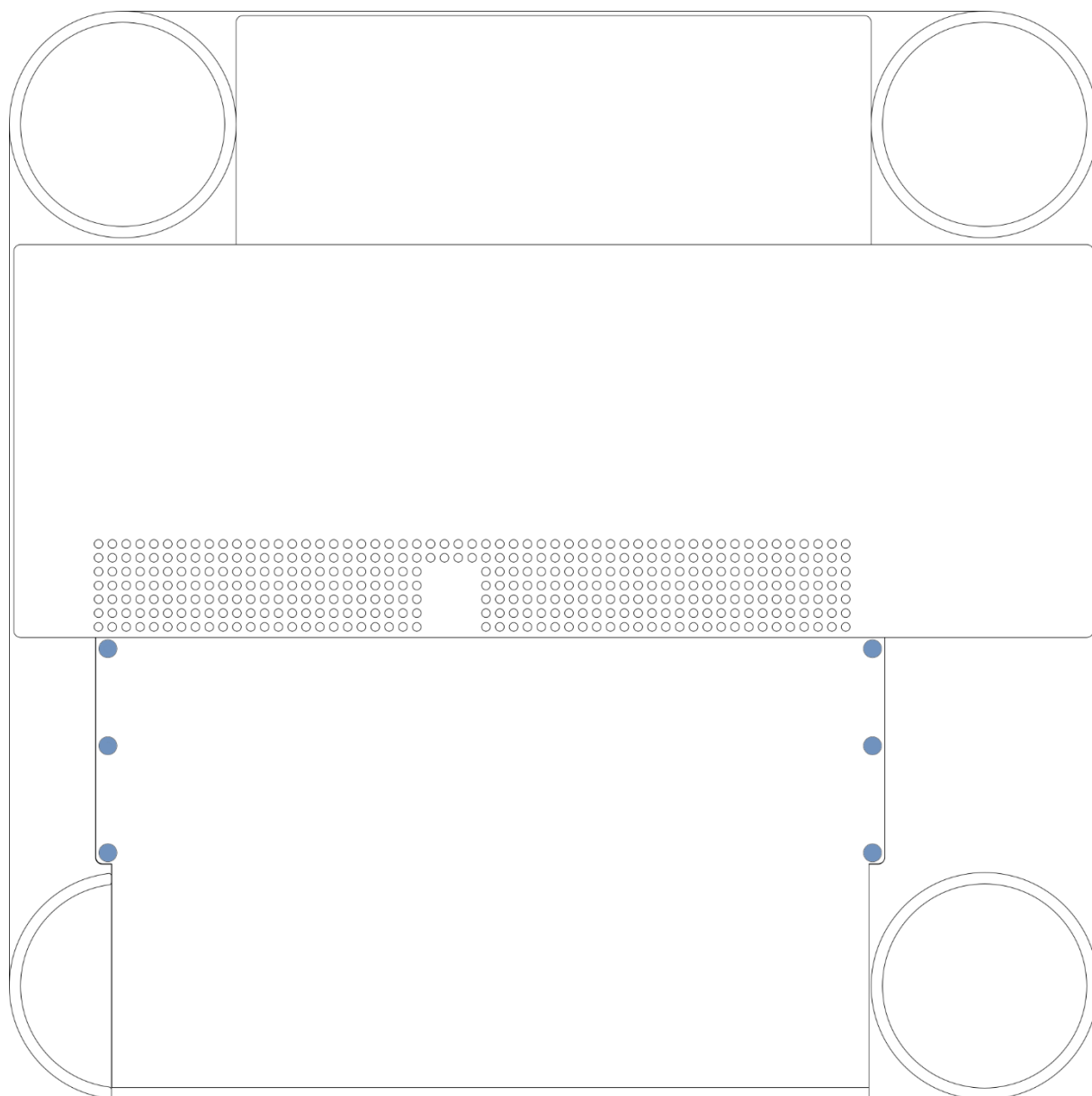
5.5 Olympus サーバーXDMI カード図

XDMI カードを固定する 6 つの 2mm 六角（インバス）ネジの位置。



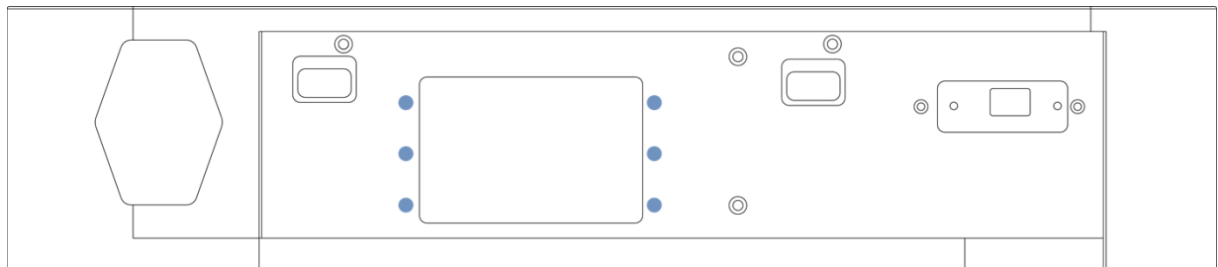
5.6 Olympus I/O 底面パネル図

I/O の底面パネルを固定する 6 つの M3、2mm 六角（インバス）ネジの位置。

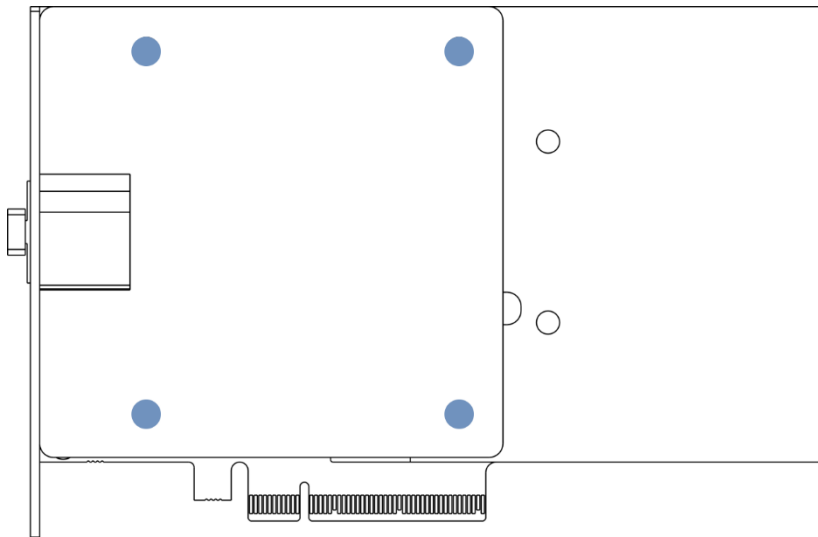


5.7 Olympus I/O XDMI カード図

XDMI カードを PCI スロットに固定するバックパネルの 6 本のネジの位置。



5.8 ドーターボード付き XDMI カード



上：XDMI カードの回路図。XDMI PCI ベースボードの上にドーターボードを載せ、ドーターボードを XDMI ベースボードに固定する 4 本のネジの位置を示しています。

アナログドーターボードには、デジタルドーターボードとは異なる長さのネジが必要です。別途ご注文の場合、これらの長いネジはアナログボードと一緒にお届けします。

5.9 適合性について

Olympus サーバーと Olympus I/O は、以下の規制と指令に従って設計され、テストされています：

- EMC 指令 2014/30/EU
- NEN-EN 55032:2015
- NEN-EN 55035:2017
- IEC 62368-1
- 定電圧基準 2014/35/EU





- バッテリーセクションに規制/認可についてはこのリンクから適合宣言書にアクセスしてください：

<https://taikoaudio.com/taiko-2020/conformity>

6 安全について

6.1 サーバー上の安全シンボル

サーバーには以下のシンボルがあります：

	FCC –この記号は、サーバーが連邦通信委員会によって承認された制限内で電磁干渉を放出していることを示します。
	RoHS –この記号は、環境に有害であり、埋め立て地を汚染し、製造およびリサイクル中の職業上の暴露の点でも危険な規制物質がサーバーに含まれていないことを示します。
	CE –このシンボルは、サーバーが市場に投入される前に評価され、EUの安全性、健康、環境保護の要件を満たしていることを示します。
	Risk of electric shock –この記号は、サーバーに感電の危険があることを示します。

7 LED ステータス

LED 状況	状 態	行 動	注 記
通常のオン/オフ インターバルで点滅	ソフトウェアエラー / Bluetooth エラー	最低 1 分待つ 状態が変わらなければ SHIPPINGモードに入る (アプリによる、AC 電源入力のまま)	起動時のみ発生し、それ 以上の期間は発生しません
オフ	バッテリーが完全 放電 / SHIPPING モード	AC 電源に接続する	
早いインターバル で点滅 ほぼ点灯	チャージエラー (AC 電源が外れて いる)	AC 電源に接続する または、アプリで Discharge を選択	AC 電源が接続されるか Discharging がアプリで 選択されるまでこのまま にしておく
早いインターバル で点滅 ほぼ消灯	バッテリーが空	AC 電源に接続する	
点灯	工場出荷時の充電 モードが自動に設 定されている場 合、放電 Always charging の場合は充電中		充電モードが Always charging に設定されてい る場合、AC 電源が切断 されない限り、状態は変 更されません
ゆっくり点滅 ほぼ消灯	工場出荷時の充電 モードが自動に設 定されている場 合、充電		通常は適用されません User charging mode が 選択されている場合、時 間切れになるまでこのモ ードを維持
ゆっくり点滅 ほぼ点灯	工場出荷時の充電 モードが自動に設 定されている場 合、放電		通常は適用されません Auto charging となっ ていた場合、サーバーフル 充電までこのモードのま ま

8 問い合わせ先

株式会社 太陽インターナショナル
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F
TEL：03-6225-2777（代表）
FAX：03-6225-2778
ホームページ：<https://www.taiyoinc.jp>

このマニュアルは、Taiko Audio の日本代理店、太陽インターナショナルによって翻訳されたマニュアルです。
オリジナル英文マニュアルは、Taiko Audio のウェブサイトからダウンロード可能です。